

姉妹都市交流から 見えた国際交流の 重要性



磯野 哲也 (いその てつや)

前・在バンクーバー日本国総領事館領事

京都市生まれ。1997年北海道開発庁（現国土交通省）入庁、神戸運輸監理部総務企画部企画課長、国土交通大臣政務官秘書官、北海道局参事官付開発専門官を経て、2010年から13年まで在バンクーバー日本国総領事館領事、現在は国土交通省大臣官房人事課課長補佐。

東日本大震災への支援

世界で最も住みやすい街ランキングで常に上位に入るバンクーバーはカナダの西の玄関口で、バンクーバーのあるブリティッシュ・コロンビア州（以下、BC州）は日系移民や貿易を通じ、カナダの中では最も古くから我が国との間で緊密な関係を持つ州です。広大な国土を持つカナダはBC州だけでも日本の約2.5倍もの面積（95万km²）を有しますが、BC州の人口は約440万人しかありません。しかも、その約半分の231万人がBC州南西部にあるカナダ第3位の大都市圏であるメトロ・バンクーバー地域^{*1}に居住していることから、人々が広大な土地に点在して生活していることがイメージできると思います。

2011年3月11日に東日本大震災が発生しましたが、震災直後から総領事館があるバンクーバーでも数多くのチャリティ・イベントが開催され、また義援金がカナダ赤十字等に寄せられました。一例を紹介すると、4月19日にはバンクーバーのクイーンエリザベス・シアターで、シアターを所有するバンクーバー市が初めて会場を無償で提供し、世界的に著名なピアニストらがノーギャラで演奏する、「がんばれ日本！」チャリティ・コンサートが開催されました。

こういった心温まる取組はバンクーバーのような都市部だけではなく、バンクーバーから遠く離れたBC州内の各地方部でも行われました。例えば、BC州の西側に位置し、日本の九州ほどの大きさのバンクー



カナダのブリティッシュ・コロンビア州

^{*1} メトロ・バンクーバー地域

バンクーバー、バーナビー、リッチモンドを始めとする22の地方自治体と2つのその他の区域で構成、面積約2,900km²。

バー島の真ん中に位置するポート・アルバーニでは、6歳の女の子が自分の誕生日プレゼントを我慢して被災地にプレゼント代を寄付し、また、BC州の南部中央に位置するオカナガン湖に面したサマーランドにある高校では、寿司ロールや焼き菓子の販売を行い、売り上げをカナダ赤十字に寄付しました。

日本との姉妹都市交流

実は、この地方部で行われた二つの取組には共通した背景があります。それは、北海道の都市と姉妹都市であることです。前者は1986年に網走市と、後者は96年に豊頃町と姉妹都市となりました。姉妹都市交流の長年の積み重ねにより、住民の間に日本への友好的な感情が醸成され、自然な発露として先ほどのエピソードにつながったと確信しています。

カナダと日本との間には約70の姉妹都市があり、約半分の34がBC州との間で、また、そのうち12が北海道との間で結ばれています。

北海道とカナダBC州との姉妹都市

1965年	釧路市とバーナビー
77年	池田町とベンティクトン
80年	上砂川町とスパークウッド
81年	白老町とケネル
83年	石狩市とキャンベル・リバー
86年	網走市とポート・アルバーニ
89年	遠別町とキャッスルガー、伊達市とレイク・カウチン
94年	美深町とアシュクラフト、沼田町とポート・ハーディ
96年	豊頃町とサマーランド
98年	深川市とアボツフォード



ベンティクトンの「池田日本庭園」

最も古い1965年からバンクーバーの東隣にあるバーナビーと姉妹都市交流を行っている釧路市は、近年カナダの日系人で構成される日系アイスホッケーチームの派遣を受け入れ、スポーツ交流を行うとともに、釧路公立大学とバーナビーにあるサイモン・フレーザー大学が姉妹大学提携を結んでおり、大学間交流も盛んです。また、バンクーバー島の北東部に位置するキャンベル・リバーと今年姉妹都市交流30周年を迎える石狩市は、他の姉妹都市でも行われているような1週間から2週間程度の短期の学生交流だけではなく、約1年にもわたる長期の学生交流も行っており、特筆に値します。

姉妹都市にはさまざまなきっかけがあります。また、最近始まった新しい交流もあれば、古くから続いている交流もあります。ただ、国際化の進展の中で、日本人が自国の殻に閉じこもっていたら、世界の中で孤立してしまうのは明らかです。住民、特に学生へ世界とのチャンネルを開くという観点から、国際交流は大変重要だと思います。

世界と出会う第一歩として

カナダは多文化主義を標ぼうし、ビジブル・マイノリティと呼ばれる非白人系移民が非常に多い国です。2011年に実施されたカナダの国勢調査の結果によると、BC州全体で英語を母国語とする人は72%、メトロ・バンクーバー地域では58%しかおらず、パンジャビ語^{※2}、各種中国語及びダガログ語^{※3}を母国語とする人々が多く住んでいます。そのためBC州のESL^{※4}制度は充実しており、州民は英語初心者に対してとても親切です。



キャッスルガーの「遠別日本庭園」

※2 パンジャビ語
インドとパキスタンにまたがるパンジャブ地方の言語。

※3 ダガログ語
フィリピンのルソン島南部を中心に用いられている言語。英語とともにフィリピンの公用語。

※4 ESL (English as a Second Language)
英語を母国語としていない人のための英語教育。

英語を母国語とする国は米国、英国、カナダ、豪州、ニュージーランドの5カ国で合計約3億2,000万人ですが、英語圏は世界80カ国以上、約5億3,000万人にも上ります。カナダで英語に触れることは世界言語としての英語に触れることであり、世界と出会う第一歩としてはまさにうってつけの国だと思います。

ボランティア中心のカナダの姉妹都市交流

日本の都市が姉妹都市交流を行う際、行政が主導し、カナダへの訪問団や、カナダからの訪問団の受け入れに財政支援を行うのが一般的であるのに対し、カナダから日本へ訪問する際は、訪問したい学生たちが自分たちでファンドレイジング・イベント^{※5}を行い、訪日費用を調達するのが一般的です。

また、日本の訪問団をホームステイで受け入れる際も、カナダ側は原則ボランティアで受け入れ、日本の訪問団の歓迎会を開催する際はポットラック形式^{※6}で行い、各人ができる範囲で交流を心から楽しんでいきます。

あるBC州の地方都市の首長からうかがって驚いたのですが、前任者は高校教師で、校長に就任して忙しくなったので、首長を辞任したとのことでした。もちろんバンクーバーなどの都市は専任の市長がいますが、地方都市は首長も薄給で兼業が可能、基本的にボランティアだそうです。日本とカナダの文化の違いと言ってしまうまでもありますが、行政の財政支援を前提とする国際交流は財政事情が悪化した際には交流休止につながることから、ボランティア精神を大切にすカナダの方式も参考にしてはどうかと思います。



アッシュクラフトの案内板に美深町との姉妹都市表示

※5 ファンドレイジング・イベント (fundraising event)
活動のための資金を個人、法人などから集める催し。

※6 ポットラック形式
料理を参加者が持ち寄る形式。

背伸びをしない国際交流

BC州の東端にあり、同じBC州内なのにバンクーバーと時差が1時間ある地域を訪問した際のエピソードを紹介します。そこは最寄りの地方空港から車で3時間ほど走ったところにある炭鉱の街でした。首長をはじめ、議員の方々と懇談しましたが、二人の議員が30年前に日本を訪問した際の写真を示し、「本当に素晴らしい経験だった。忘れられない思い出だ」と述べていたのがとても印象的でした。こういった思いが世代を超えて継承されれば、両国にとって本当に素晴らしいことだと思います。

日本の隣の国であるカナダ (BC州) の都市と、背伸びをしない身の丈にあった国際交流を始めませんか。きっと道民に大きな利益をもたらさずです。

カナダと日本の違い

最後に、国際交流の重要性を離れ、バンクーバーでの勤務を通じて知った日本とカナダの違いを紹介したいと思います。

一つ目は、日本へ留学経験のあるカナダの大学生から指摘を受けたのですが、日本の大学生はカナダの大学生と比べると大学における勉強量がかなり少ないようです。カナダの大学生は授業の予習・復習、宿題でアルバイトをしている時間もないほど勉強するそうです。

二つ目は、JETプログラム^{※7}を通じて日本の高校の英語教師の助手を経験したカナダ人たちから幾度となく聞いた話ですが、日本の高校で授業を妨害するような生徒を教室から排除しないことについて、とても不思議なようでした。カナダでは教師の権限がとても強く、教師が他の生徒の邪魔になるので授業を受けさせるべきではないと判断した生徒については授業を受けさせないそうです。

三つ目は、カナダでは政府関係者や企業関係者が休暇を取得する際、長期・短期に関係なく、原則としてその職務を同僚に引き継いでいませんでした。同僚に引き継いだ場合、その職務を同僚に奪われる可能性が

※7 JETプログラム (The Japan Exchange and Teaching Programme)
語学指導等を行う外国青年招致事業。

あるからだ」と説明していました。理由はどうであれ、長期に担当者が不在になるのは仕事のカウンターパートにとってはとても不便ですが、カナダにはそれを受け入れる寛容の精神があると思いました。

日本の伝統文化、ポップカルチャーが人気

カナダでは能楽や茶道などに代表される日本の伝統文化、アニメや漫画などの日本のポップカルチャーに対する人気が高く、「寿司 (Sushi)」、「酒 (Sake)」などの日本語が普通に通じることを日本人として大変誇らしく感じました。ただ、私見ですが、カナダの方が日本人に比べ、楽しそうに生きているように見えました。

カナダではホームドクター制を導入しており、ホームドクターの診断書がなければ専門医の診察が受けられず、また緊急を要しない手術は後回しになることから、カナダではホームドクターの受診に2週間、専門医の受診に2週間、手術までにはそこから数カ月かかることは珍しくありません。個人的にはかなり不便だと思いますが、カナダ人の医療制度に対する満足度は非常に高く（7～8割）、日本人の満足度（5割以下）よりかなり高くなっています。

どうすれば幸せに生活できるか

バンクーバーで暮らし始めた当初、日本と同程度のサービス水準を求めていました。インターネットの接続状況が良くないため業者に電話をしたら、「来週の月曜日に行く」という返事だったので、月曜日一日待っていました。業者は来ませんでした。次の日に抗議の電話をしたら、「だから、来週の月曜日に行くと言っただろう」と平然と言ってのけました。また、鍵を部屋の中に置いたままロックしてしまい、鍵屋を呼んだことがありました。日本の鍵屋のイメージと違い、筋肉質なカナダ人が来たのでおかしいなと思っていましたが、簡単そうな鍵が30分経っても開けられず、しまいに鍵を壊していいかと言い出し、そして、ドアノブを引っこ抜いて、「開いて良かったな」と言って、帰って行きました。このようなことが続き、最初のうちは

とても不満に思っていました。1年ぐらい経過すると、これが当たり前になり、腹が立たなくなりました。日本はサービス水準が非常に高いですが、サービスを期待する水準もかなり高いと思います。また、感謝の気持ちを伝えるのも下手なのではないでしょうか。

どうすれば幸せになれるか、また幸せと感じられるか、日本人がみんな考える時期に来ているのではないのでしょうか。

カナダの広大な国土には、カナディアン・ロッキーやナイアガラの滝などの雄大な自然や、世界遺産に登録されているケベック・シティや「北米のパリ」と称されるモントリオールなどの歴史を感じさせる街並みが残っています。日本からバンクーバーまでは直行便で約9時間です。国際交流のために、日本の隣の国であるカナダにぜひお出かけください。



シャトー・フロントナック (ケベック・シティ)



コロムビア大氷原 (カナディアン・ロッキー)